

ミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* L. var. *microphylla* Honda

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。本地域の湧水湿地に固有の植物で、開発や園芸目的の採取により減少傾向が著しい。

【形態】

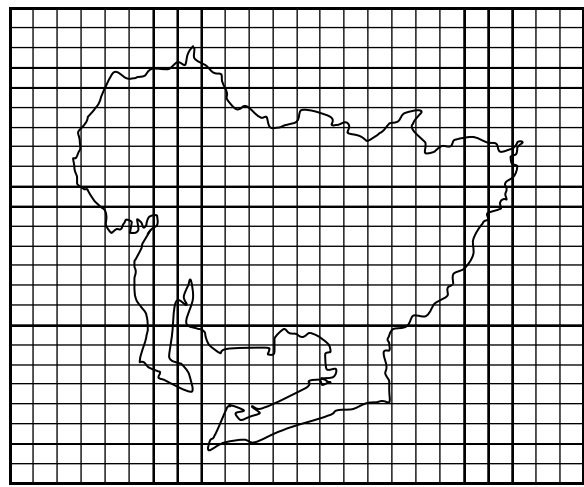
多年生草本。シオガマギク(233頁)の変種とされており、それから葉が小さく長さ10~20mm、幅4~7mmで、多数つき、ほとんど互生することで区別される。「花冠上唇の先が特に短い」と記述されている文献もあるが、花部の形態はシオガマギクと異なる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(小林 65375)、藤岡(芹沢 53939)、豊田東部(畑佐武司 5461)、瀬戸尾張旭(瀬戸市：塚本威彦 2568、尾張旭市：飯尾俊介 64)、豊橋南部(野依町、芹沢 57911, 1990-10-23)、岡崎北部(小呂町、芹沢 50877, 1988-10-22)、犬山(善師野、芹沢 53734, 1989-10-6)にもあったが絶滅した。鳳来南部(吉川峠、加藤等次 s.n., 1958-10-12)、幸田(須美、瀧崎吉伸 382, 1978-10-22)、西尾(室場村茶白山麓、石川 s.n., 1949-10-15, CBM 114396, 実際は幸田町側かもしれない)、日進長久手(日進町愛知池、井波一雄 s.n., 1961-9-25, CBM136206)で採集された標本もある。三好と半田武豊にもあったらしいが、あったという湿地はすでに破壊されており、確実な資料も残されていない。作手にはシオガマギクとの中間型(標本：芹沢 57422)がある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州中部(愛知県、岐阜県)、広島県からの報告は誤りである。

【世界の分布】

日本固有。

【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の日あたりのよい場所や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊田東部と瀬戸尾張旭には比較的多い場所があるが、他はいずれも個体数が少なく、危機的な状況である。幸田と犬山では道路建設に伴う湿地の破壊、岡崎北部では園芸目的の採取により絶滅した。

【保全上の留意点】

栽培は困難なはずであるが、それでも花が美しいため、しばしば採取される。カメラマンや観察者による踏み荒らしもある。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

基準標本は酒井忠壽氏が豊橋市岩崎町で1938年10月19日に採集されたもので、東京大学総合研究博物館(TI)に保管されている。

【関連文献】

保草本 p.134、平草本 p.116、SOS旧版 p.80 + 図版 14、環境庁 p.343、SOS新版 p.91,93。